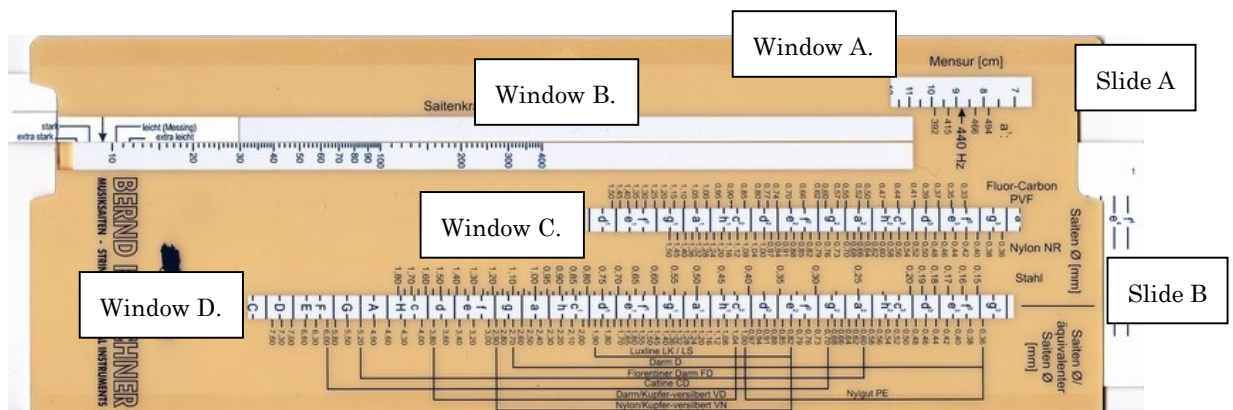


キュルシュナー弦計算尺の使い方

2011/Aug. ムジカ・アンティカ湘南 野村 詠

表側面の使い方



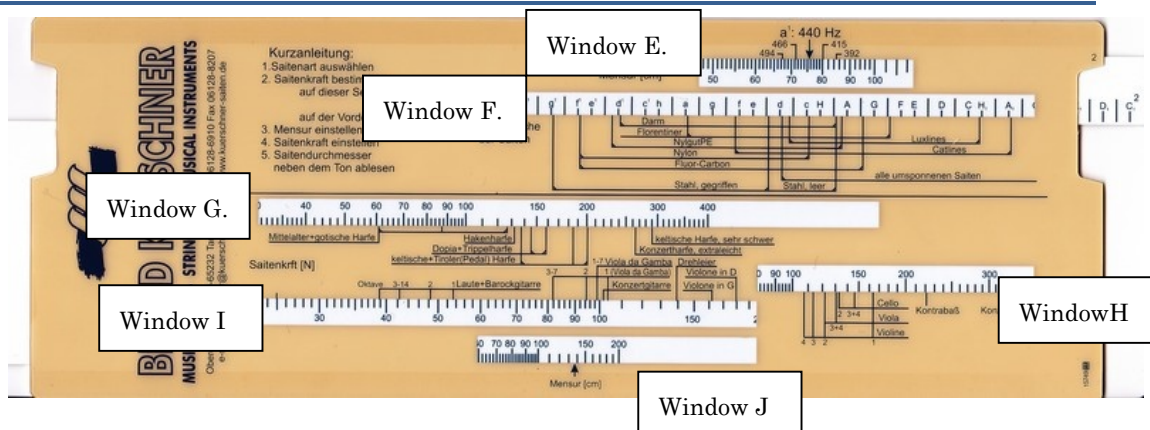
A. ガット弦の太さを計算する（基準ピッチ、有効弦長、必要なテンションから）

1. 窓Aで、スライドAを動かしてお使いになる基準ピッチ（例 415）の線に有効弦長（cm）を合わせる（例 70 cm）
2. 窓Bで弦のテンションを何ニュートン（表示はN. 10 N = 1 kg）にするか合わせる（例 60 N.）
3. 窓Dの下側の目盛りが、スライドBの音名に対応するガット弦の太さ。
（スチールは窓Dの上の **Stahl** という目盛り。同様にナイロン **Nylon** やフロロカーボン **Flour-Carbon** はその上の窓に対応する目盛りを読む）

B. 特定の弦のテンションを計算する

1. 窓Dで、弦の太さと音名をあわせる（例 60 e²）
2. スライドAと窓Aで有効弦長と基準ピッチをあわせる（例 32 cm、440 Hz）
3. 窓Bで、スライドAの下向き矢印が指すスライドBの数値がその弦のテンション（単位N. 例 65であれば6.5 kg）

裏面の使い方



C. 基準ピッチ、有効弦長、音高から適切な弦のタイプを判別する

1. 窓Eで演奏する基準ピッチと、有効弦長を合わせる (例 440 Hz, 70 cm)
2. 窓Fで音高を選んで、窓Fの下のチャートからあてはまる弦のタイプを判断する。

D. 楽器に応じて使われる弦のテンションを計算する

1. 窓Jで有効弦長を設定する
2. 計算する対象の楽器に応じて、対応する窓の目盛りでテンションの数値 (N) を読みとる (例 バイオリン、傾斜テンションの場合の1弦は58 N)

窓G (中世またはゴシックハープ、ダブルハープ、トリプルハープ、ケルトまたはチロルハープ、特に軽いコンサートハープ、特に重いケルトハープ)、窓H (チェロ、ビオラ、バイオリン、コントラバス、コンサートハープ) または窓I (リュート、バロックギター、ヴィオダ・ダ・ガンバ、コンサートギター、ハーディガーディー、ヴィオローネ)